

# サイン+サンクス運動（「手を上げて+ありがとう」で渡る横断歩道）とは？

## サイン

### ◎ ドライバーに横断する意思を明確に伝える

横断歩道を渡るとき、歩行者はドライバーに  
**横断のサイン**（手を上げる動作とアイコンタクト）  
をしましょう。



## サンクス

### ◎ 「ありがとう」の気持ちを伝える

停止してくれたドライバーには  
**感謝の気持ち**（会釈など）を伝えましょう。



運転者に横断歩行者保護の意識を向上させ、横断歩行者事故を抑止する取組です！

## 《期待される効果》

- ◆歩行者は、会釈などで「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えるため、横断歩道を渡る前にドライバーとアイコンタクトする習慣が身につく、安全確認の徹底を図ることができます。
- ◆ドライバーは横断歩道の手前で一時停止することが義務であるが、感謝の意を伝えられることで、止まって良かったという心地よさから、次も止まろうという意識の継続性に繋がります。
- ◆児童等においては、横断歩道の手前で車が止まってくれたという経験を重ねることで、自身がドライバーとなった際に横断歩道における歩行者優先の意識が根付きます。

## （参考）

- ・「令和3年信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査（JAF調査）」において本県の停止率は全国ワースト5位の18.4%でした。（全国平均30.6%）
- ・令和3年4月に「交通の方法に関する教則」と「交通安全教育指針」が一部改正され、「横断するときは、手を上げるなどして運転者に対して横断する意思を明確に伝えるようにすべき」との記載が追加されました。